

# 恵みと真理のニュース



2019年05月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

## 神様が共におられ助けくださると不可能なことはありません

私が幼い頃、父親が病気にわずらっていました。父親の病気を治すため母は偶像宗教を探して哲学者や占い師によく会いに行きました。父親が死ぬ直前に教会の牧師が家に來られて礼拝を捧げましたが、父が義理の姉に“あなた達はどのように生きずに必ず教会に行きなさい。”と頼んで亡くなりました。しかし、私は結婚をしてお寺に通いながら福音を伝えるクリスチャン達をとて嫌がって門前払いをくわせました。当時、私は世の生活に疲れ果てて悪口を癖がついていました。そして、旦那をいつも疑う病気を患っていました。私は頭がいいから何でも誰より上手だし、熱心に生きていたいと思ひ、私はいつも正しくて他の人は間違っていると思っていました。そんな高慢な心を持っていたので悔しくて苦しかったことが多かったです。心と体が疲れて全てを放棄したかった時、恵みと真理教会に通っている息子の友達の母が家に來られて“教会に一度だけ行きましょと勧めました。”息子の友達の母だったので断ることも出来なくて二度とは行かないと強く言って帰ってくる主日に教会に行きました。その日、参席した礼拝で当会長の牧師の説教を聴きながら神様の御言葉がわたしの心に感動されました。多くの時間が経った今も、その時、受けた御言葉が生々しく耳に響きます。御言葉の恵みが心の扉を開いて御言葉の権能が頑ななわたしの心を溶かしました。家に帰ってきて窓の外の教会の十字架を見ながら祈りました。“神様！本当に神様は存在して生きておられますか？確実に知りたいです。生きておられるなら私の祈りを聞いてください。そうすると神様を信じます。ある日、私が祈っていたことが現実に成し遂げられました。私はとても嬉しくて伝道した方に電話をかけました。本当に神様が生きておられる方でわたしの祈りを聞いてくださったと話をしたとき、泣く声が聞こえてきました。泣きながら“神様、感謝します。”としました。その日がわたしの救いのため21日間期間を決めて神様に祈った最後の日だとして

した。私と約束したことがあって電話もしなくて祈りだけしたとしました。その後、わたしは熱心に教会に通いわたしの魂を救ってくださり、新しい命を下された神様の恵みに感謝しながら礼拝する生活をしました。せつちで強かったわたしの性格が優しくして融和な性格で変わり始めました。私が先に変化されながら旦那を理解するようになり和やかな家庭になりました。何年後、旦那が事業を始めて1年になる前、IMFの外国為替の危機を襲ってわたしの家庭が経済的な問題がありました。月末になると借りたお金の利子を払って職員の月給を上げるためあちこち走りまわりました。もうこれ以上は借金しないようにと今、大変だと神様に泣きながら祈りました。すると、神様は助けを与えてくださいました。私が運営した小さい店にお客様をたくさん送ってくださって危機を乗り越えました。神様の恵みで仕事がよく出来て生活が徐々によくなり借金を返しました。続けて店がよくなりもっと広い40坪の規模の店を運営するようになりました。生活が安定され今まで疎かだった伝道に力を尽くしました。店のお客様を積極的に伝道してまた家庭福音化のため熱心に祈りました。姉のため期間を決めて祈りをする時、母に認知症状が来た話を聞きました。姉と電話をしながら母が治ると一緒に教会に行こうと強く約束しました。うそのように神様は母の病気を治療してくださいました。しかし、姉は教会に生きたがらなかったです。様々な苦難があつてうつ病を患いました。心の病気で出来て姉が教会に来て主を受け入れました。神様が姉を治療してください、主の中で豊かな人生を生きる家庭で変化させてくれました。旦那を伝道するため様々な努力をしましたが、旦那は相変わらず神様を不信しました。神様の存在を意識しながらも悔い改めなかったです。旦那が金をよく稼ぐなら永遠にイエス様を信じないと思って私は旦那が神様を信じる生活をするなら仕事がうまく出来て経済的にも豊かになる福を与えてくださいと祈りました。ある日、2010年12月寒い冬、急に建物の主人が店を空いてくださいと言われました。主人の要求の通りインテリアを新しくした後、一ヶ月が経たない時でした。

権利金はおろか、施設の原状復旧までして出て行くとはい実に荒唐無稽ですごく心配でした。うつ病ができて人に出会うとそぞろに涙がこぼれました。聖徒に祈りを要請してまた、信じない人まで私が知っている人々に恵みと真理教会に行つて祈ってくださるのを願いました。多くの方々が自分の事のように祈ってくれましたが、しかし、旦那は動かなかったです。落胆した私に息子が“今までお母さんがよく我慢してお父さんのため祈ったので、もしかしら今ちようどお父さんがイエス様を受け入れる機会になるかもしれないようです。”としました。息子の夫婦は私たちの教会の青年部で奉仕しながら結婚もして娘も幼稚園で奉仕しながら結婚しました。真実な息子と娘の夫婦の慰めが大きい力になりました。次の日のことです。旦那が教会と一緒にいこうと私について来ました。その瞬間、世を全部得たようによかったです。嬉しくて神様に感謝しました。すぐ、うつ病はなくなり笑われました。続けて店の問題で期間を決めて祈りをする途中驚くようなことが怒りました。心を楽に商売するように店を与えてくださいと祈りをする時にふっと思い出す場所があつて行ってみたら公売中でした。金額があまりにも高くあきらめようとしたが、教区長に祈りを頼んで、神様の御旨を求めました。その中で知人の助けを受けて商店を買入りました。私たちの状況では夢見ることもできないことでした。神様が共にしてください、助けくださると不可能なことがないのを経験して私たちの家族は神様に感謝と賛美を捧げました。今まで私が頭だけでイエス様を信じたようです。しかし、これから熱い心で信じます。礼拝をもっと愛し主のことに献身しながら日々、主と同行する人生を生きています。知人と隣人と20人くらいの不信者を主の懐に導くため一人もあきらめなく熱心に伝道して祈っています。早くイエス様を受け入れてわたしの主を仕えながら主の中で礼拝中心の生活をするように願ひ祈ります。私に救いの喜びと感激の中で生きて、祈りをして答えられる楽しみと力を尽くして主の事をする時に感じる幸せを享受しながら生きるように導いてくださる神様を賛美します。神様、感謝します。ハレルヤ！



【信仰コラム】

神様がくださったその道

”もし、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩むならば、主は誓われたようにあなたを立てて、その聖なる民とされるであろう” (申命記 28:9)

観念や信仰は人々がどんな方向と目的に向いて進むようにする道のようなことです。道を誤ると努力と苦勞が無駄になります。人が選択すべきの最も重要な選択は信仰路線の選択です。その影響と結果がこの世だけではなく来世の生活まで及びます。神様は人生達が必ず行くべき道を定まれ”その道を歩め”と言われました。

宗教に関連して四種類の路線があります。

一、無神論の路線があります。無神論の中で共産主義があります。共産主義者達は公義で真実であり罪人を審判なさる神様の存在を否定します。無神論に基盤を置いた哲学や思想や体制は本質的に誤った路線です。二、不可知論の路線があります。不可知論は有限な人間は無限な存在に対して認識できないので神様の存在に対して肯定も否定もできないという主張です。不可知論者達の口実が無理強い主張であることを明らかにした御言葉がローマ書1章18節から20節に記録されています。三、偶像宗教の路線があります。天地を御造りなさいイエスキリストによって罪人を救われる神様以外に信仰の対象に扱う全てのことが偶像です。四、キリスト教の路線があります。神様はどなたであり、人間はどんな存在かについて、天地創造と人類歴史の未来に対して神様の啓示なしには知ることができ

ません。その啓示が聖書に記録されています。キリスト教は人をイエスキリストに導く路線です。一般宗教の枠の中に入れることができるではありません。しかし、キリスト教人だとしても実状はキリスト教人ではない人がいます。その信仰路線を五種類に分けて調べてみます。

第一は、律法主義の路線があります。イエス様は律法学者とパリサイ人達に向いて過酷にも責められました。律法を守って救いを得ようとする事で救いの恵みと真理を歪曲するからです。律法の役割は人間の犯罪を表わす一方、人間の行為では正しくなれないという事実を知らせ、結局イエスキリストに進ませることです。第二は、イエスキリストを信じると正しくなり罪から自由を得たので、これからはいかにいっても天国に行く主張する信仰路線があります。神様の子に生まれ変わる変化を被ると光の子のように行うため励むようになり、光の実を結ばないと悔い改めて聖霊の助けを求めるようになります。従って、このように主張する人は生まれ変われなかったということ自ら証明するのです。

第三は、イエスキリストを信じる信仰に律法を行う行いが補充されることで救いを受けると主張する信仰路線があります。このような主張は誤ったことです。ヤコブの手紙に行いがない信仰は無駄であり、死んだ信仰だと言いながらラハブをその例えに挙げました。ラハブの行動が彼女の信仰を補充して完全にしたのではなく、ラハブの完全な信仰がそのような行動をさせたのです。

第四は、混合主義の信仰路線があります。聖書が神様の啓示で記録された神様の御言葉だという事実を認定しながらも一方では、他の宗教の経典もそうだと信じる人々がいます。イエスキリストは救い主だと信じながらもキリストが多くいると信じる人々がいます。宗教一致、宗教多元化の波が全世界に蔓延っています。このような信仰路線を従う人は誠なキリスト人ではありません。

第五は、聖書通りに信じて行う信仰路線があります。聖書は聖霊に感じられた人々が神様から受けて話したことであり、私達の信仰の行為と絶対的な基準であることを確信に信じます。イエスキリストの救いの恵みで罪の許しを得て正しくなり救いを得ることを信じます。救いを得るために律法を守って行うのではなく、救いを得たので神様の法道を守って行うことに励んで生きています。神様を礼拝して福音を述べ伝えて教会のために献身奉仕することをキリスト人の特権に知って楽しく行います。飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神様の光栄のためにして、主を喜ばせる者になるために励みながら生きていきます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 失敗を乗り越えて再起したヨナ



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

聖書には、人々が神との関係で経験して振る舞った様々な態度と事件が記録されています。神を仕えることに完全に従って模範的な人物たちの事例もあり、失敗を乗り越えて再起した人の事例もあります。その中で失敗を乗り越えて再起した人の経験を読めば、私たちは弱い人生をあわれんでおられる神の愛に胸キュンとなります。今日は失敗を乗り越え再び立ち上がった人々の中に預言者ヨナを見てみましょう。預言者ヨナが活動していた時代に、イスラエル国の北東には甚だしく強盛なアッシリア帝国がありました。

アッシリア帝国の首都ニネベは非常に大きく、繁栄した都であったが罪が深刻で、神がニネベを審判しようと思われました。しかし、慈悲の神は、まず、預言者をそこに送って、審判を警告することでニネベの人々が悔い改めて滅びを免れるのができるように願いました。そしてアミッターの子、預言者ヨナに言われた。「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって呼ばわれ。彼らの悪がわたしの前に上ってきたからである」このような神の命令を受けたヨナは拒否反応を示しました。その理由を、私たちは断定することはできませんが、神の命令が自分の心に適わないのため、神の顔を避けて逃げていこうと決心しました。

ヨナが受けた命令は、実に大きい使命であり、また栄光の使命でした。しかし、ヨナはニネベとは反対の方向であるタルシシュに逃げようとして、ヨナがヨッパの港に降りて行ったところ、ちょうどタルシシュに行く船に出会いました。ヨナは船に乗ったやいなやすぐ底部に降りて行って横になって睡眠を求めました。ヨナが深く眠ったその時刻に神が大きな風を送って激しい波風で船が破船の危機に直面しました。船員は、恐怖に震え、人々はおのおのの神を呼ばれた。船長は船客があるキャビンに通ってそれぞれ自分の神々に求めなさいと要求しました。そのところで、眠っているヨナを見て起こして、「あなたはどのように眠っているのか。立ち上がってあなたの神に叫びますよ。もし、その神が私たちを考えてくれれば、私たちは死なないことがあるかも知れない」としました。

船員たちは船の中にいる人々の中、誰かが神に大きな罪を犯したと判断し、この災害が誰に起因するかどうかくじを引いてみようと思案しました。くじ引きでヨナが当たりました。ヨナは、自分の身分と神の命令に従わないで逃避の道に上がったことを告白しました。船員が聞いて深く恐れていた。海はますます荒れてきました。ヨナは、自分が責任を被ることに決断して、自分自身を海に投げようとしていました。船員がヨナを海に投げるとすぐ暴風が静かになりました。海に投げられたヨナは、神が備えた大きな魚が食べられた。ヨナは魚の腹で悔い改める機会を得ました。

神のことばを聞き従わないので受ける患難は、信仰を再起する機会を与えられるものです。ヨナが言った、「水がわたしをめぐって魂にまでおよび、淵はわたしを取り囲み、海草は山の根元でわたしの頭にまといついた。わたしは地に下り、地の貫の木はいつもわたしの上にあった。しかしわが神、主よ、あなたはわが命を穴から救いあげられた」としました。

神の御旨に逆らって下り坂を行きます。船の底に、海の底に、魚の腹に、山の根元まで下がり続けました。神に背く人生が、時には部分的にうまくいって上昇しても、総体的には、下り坂に行きます。ヨナは苦難の中、正しい祈りの姿勢をとり、神に祈りました。誰も恨みません。自分の行為を言い訳をしていない。自暴自棄しませんでした。ヨナは叫びながら、神の赦しと救いを固く信じていました。「わたしは言った、『わたしはあなたの前から追われてしまった、どうして再びあなたの聖なる宮を望みえようか』しました。これは正しい態度ではありません。悔い改めるとき、神のあわれみを期待しても良いです。

ヨナが祈るのを「わたしは惱みのうちから主に呼ばわると、主はわたしに答えられた。わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、あなたはわたしの声を聞かれた」としました。そして、続いて「わたしは地に下り、地の貫きの木はいつもわたしの上にあった。しかしわが神、主よ、あなたはわが命を穴から救いあげられた」としました。彼は「聞き入れた。救われた。」と既に答えと救いを経験したものとなして言いました。これが神様に向けた信仰の祈りです。ヨナは神を考え続けたので悲観で否定的な考えが心に置かれないうにしました。「わが魂がわたしのうちに弱っているとき、わたしは主をおぼえ、わたしの祈はあなたに至り、あなたの聖なる宮に達した」としました。

ヨナは、神の恵みを大切に知ってその恵みの中で生きると決意しました「むなしい偶像に心を寄せる者は、そのまことの忠節を捨てる。しかしわたしは感謝の声を持って、あなたに供え性をささげ、わたしの誓いはたす。救は主にある」しました。ヨナは非常に多様な祈りをしました。悔い改めの祈り、希望の祈り、信仰の祈り、感謝の祈り、求めの祈りをしました。神がヨナの祈りを聞き、魚に命じて、ヨナを陸地に吐かれました。神の命令を違反した場合、暗やみの中にあるが悔い改めと光明に出てくるようになります患難の魚も、祈る者を吐きます。

神がヨナに再び命令を下しました。「あなたは立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって呼ばわれ。彼らの悪がわたしの前に上ってきたからである」神はヨナに再起の機会を与えられたのです。「そこでヨナは主の言葉に従い、立って、ニネベに行った。ニネベは非常に大きな町であって、これを歩きめぐするには、三日を要するほどであった」と記録された。ニネベは、古代メソポタミアの町の一つでヨナ当時アッシリア帝国の首都でした。ニネベの町は、その周囲が約96キロに達し、1500個の塔があり、城壁は30メートルの高さに、城壁の上の3台の馬車が並んで走ることができる程度だったそうです。「左右を見分けることができない幼い子供だけ12万人」だったことを見ると、その城には、少なくとも60万人の人口があったのです。古代都市として巨大な規模です。

ヨナはニネベ都に入ると神が与えられた言葉を叫びました。彼は神から受けた言葉をそのまま叫びました。ヨナの叫びを聞いてニネベの民は、神を信じて断食を宣言し、荒布を着ました。民の悔い改めニュースが王に知らされると王は、積極的に悔い改めることに加担しました。国のイベントになるようにしました。調書を下しました。断食を宣言しました。荒布を着ました。主に力を尽くして叫びました。悪行を捨てました。ニネベの王が公布した調書の内容は次のとおりです。

「また王とその大臣の布告をもって、ニネベ中にふれさせて言った、『人も獣も牛も羊もみな、何をも味わってはならない。物を食ひ、水を飲んではならない。人も獣も荒布をまとい、ひたすら神に呼ばわり、おのおのその悪い道およびその手にある強暴を離れよ。あるいは神はみ心をかえ、その激しい怒りをやめて、われわれを滅ぼされないかもしれない。だれがそれを知るだろう』(ヨナ書 3:7~9)。ニネベの王は、自分自身をはじめ全住民の悔い改めと断食も神の審判を撤回させる絶対的な条件ではないと思いました。彼は謝罪と救いの恵みは、神の主権に付いことであると信じていた。これらのささやかな悔い改めがあったので、ニネベの王とその民は赦しを受けることができました。聖書が言うの悔い改めという用語は、単に後悔するのではなく、完全な方向転換、方向修正を意味します。45度90度ぐらい転換する人は信仰生活を娯楽に思っているので信仰生活を趣味にします。巫俗的な信仰があります。360度転換する人がいます。まねを見通しが、最終的に元に戻ってしまう人です。180度転換しなければなりません。このような人は、聖書の示すとおりに信じ何に会っても、主を離れません。あなたは人の中心から神の中心に、自分の優先から神優先で、自分の理論と主張から、神の御言葉の通りに180度転換する生活をしてください。

この時間は、ヨナの不従順と、これを扱う、神の恵み深い手を見てみました。そしてヨナが絶望状態で悔い改めと信仰と従順で再起する様子を見ました。神は選ばれた者たちが過ちで行うときに再び信仰と従順の姿勢で立ち上がるように再起の機会を与えてくださいます。私たちは、その機会を軽く思わないでください。愛する皆さんは、もし主を仕える道で偏って行われる際に自己主張と理論の枠組みを作って、その中に回避しようとするのではなく速やかに悟ってヨナのように悔い改めるので失敗を乗り越えて再び立ち上ってください。再起の機会を逃さずに良い用いることを願っております。